



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：スイス・ジュネーブでの P5+1 との協議（10月15～16日）（3）

10月15～16日、ジュネーブでイランと P5+1 との協議が実施された。

同協議は、15日（第1セッション、第2セッション）、16日（第3セッション、第4セッション）にわたって行われ、第1セッションと第4セッションには、イランのザリーフ外相と EU のアシュトン上級代表が出席した。

同協議の概要は以下の通り。

1. 協議終了後、はじめてとなるイランと P5+1 の共同声明が発出された。同声明によれば、次回協議を11月7～8日にジュネーブで行うことが決定された。また、次回協議の前に、イランと P5+1 の原子力、科学、制裁に関する専門家が、双方の見解の相違の検討および具体的なステップを作成するために会合を開くことが合意された（16日付メフル通信）。
2. ザリーフ外相は協議終了後の記者会見で、協議は双方が真剣であることを示しており、我々は協議に向けた共通の基盤に至り、それをテヘランに伝えると述べた。また、追加議定書については、現在、様々なメカニズムについて結論に至るために議論中であり、イラン国内には追加議定書について一連の法的制約が存在すると言及した（16日付メフル通信）。
3. ザリーフ外相は、次回協議前の専門家協議に関し、イラン側代表団に新メンバーが加わる必要があると述べた（16日付メフル通信）。
4. アラーグチー外務次官（法律・国際問題担当）は、我々は全てのレッドラインに関して新たな解決策を見つけていると述べた。また、米国を含む全ての代表団と、制裁解除について議論したと語った。さらに、追加議定書とウラン濃縮のレベルは、最終ステップの一部であると述べた（16日付国営通信、メフル通信）。
5. アラーグチー外務次官は、次回協議は次官レベルで行われる見込みで、今回の協議と同様、次回協議にもザリーフ外相とアシュトン EU 上級代表が参加すると述べた（16日付メフル通信）。

6. アラーグチー外務次官は、自身とシャーマン米国務次官との会談に関し、米国との間で2国関係について議論することはなく、核問題に関する議論のみを行うと述べた（16日付ファールス通信、イラン国営通信）。
7. イランのタフテラヴァーンチー外務次官（欧米担当）と英外務省のガス政務局長が会談し、2週間以内に、両国の非駐在の臨時代理大使を任命することに合意した（16日付イラン国営通信）。

---

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799